

平成 28 年度第 2 回阿南町総合教育会議議事録

日 時：平成 28 年 12 月 19 日（月） 13 時 30 分から 15 時 15 分

場 所：阿南町役場第一会議室

平成 28 年度第 2 回阿南町総合教育会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
 - (1) 町長
 - (2) 教育委員長
- 3 意見交換
 - (1) 児童・生徒が減少する小規模学級・学校の今後の運営について
 - ①特別支援を要する児童生徒の増加に伴う町としての支援
 - ②小規模学校・少人数学級における教育・学習環境のあり方
- 4 懇談
平成 29 年度予算編成について（お願い）
教育を行うための諸条件の整備及び文化等の振興のための重点施策
- 5 閉 会

《出席構成員》

町 長	勝 野 一 成
教育委員長	佐 々 木 進
教育委員長職務代理	金 田 修
教育委員	猪 切 信 子
教育委員	大 倉 康 夫
教育長	南 嶋 俊 三

《事務局》

総務課長	松 澤 享
総務課行政係長	勝 又 司

《出席職員》

教育委員会事務局長	岡 田 六 久
〃 社会教育係長	大 平 正 章
〃 子ども教育係長	村 山 俊 行

- 1 開 会
 - 松澤総務課長
どうも、皆さんこんにちは。
定刻ですのでこれより第 2 回総合教育会議を始めさせていただきます。
それでは最初に町長あいさつ。

2 あいさつ

○ 勝野町長

いろいろ問題ばかりで大変だけれども、どっかで踏み出して行かんしょうねえとおっ
おる。前の町長からは、自分からは言い出すなと言われているんだが、それでも滅亡の危機に
なるんじゃないかと思っている。どうだら。

考動力の話もそうだが、売木の村長から言われて、教育委員会の衆に見に行つて来てくれと
頼んだんだが、子どもたちが来て4世帯も住み着いたという。そんな立派な教育をしていると
ころがあると言うが、見てきたらいいと思う。人前であつてもいいことならやってくれりゃあ
いいと思う。統合せよということではないが、スパルタなどは通用しないし、そういう中じ
ゃ学校は学校なりに成り立つようなことを考えにゃいかんと思う。誰も触りたくないの、言
わつておるんだが、他の南部の町村は具体的にどう考えておるのかな。どう思っているのか解
からないので、そこらを聞きてえと思つておる。毎年毎年、言わないまま日が経っていく訳に
は、いかんと思うんだがどうだら。

○ 松澤総務課長

それでは続きまして、佐々木教育委員長の方からお願いします。

○ 佐々木教育委員長

改めましてこんにちは。勝野町長には、日頃、教育委員会の諸行事に対して、大変深いご支
援とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

2回目の総合教育会議ということで、今回は学校教育関係の二項目です。これらは、当町を
含め南部14市町村共通の課題でもありますので、他町村の様子を参考にして、より良い方向
に一步でも前進するようご協議していただきたいと思つていますので、よろしくお願いいたします。

《意見》

○ 今の土日の新聞だけでも、俺がやいて5,6枚になったものを各課の棚へ入れて置いたんだけ ど、二日間に渡つて出ておつたのが交付税、読みくだしてみると普通交付税の枠は、4,000億 だか増やしたというが、特別交付税は半分にするという。トータルでどうなるのか。

○ 普通交付税が増えたとしてもパイを取り合う話だから、普通交付税がうちは今年が20億200 万、去年が20億2,600万だったんですけど、それが19兆6,000億くらいの交付税になるとい うと、特交が半分だと6,000万か7,000万になっちゃうし、普通交付税も19億3,000万くら いになると思う。そうすると1億4~5,000万減っちゃう。

○ それだけの金が使えんのだに、ねえんな。どこへしわ寄せをさせていくかということだ。ど こも色んな施策で必至だ。

さっきも吉田ひろみの事務所へ飛んで行って、天竜川上流河川事務所で話をしてみても、
どこも交付税の取り合い合戦で厳しいという。みんな動いて取り合いをしている。他の町村
も動いている。動いたってそんなことだ。役場におれんのな。座っていたら給料はいただけ
るが、金が無くなったときに廻していけない。これが現状だと思う。

今度もアトムで使う為の補助金を、一年間議会に説明して、一年間東京事務所やいろいろ
模索して、農政部長まで行ったりしたが、結局、衆議院選挙が終わってからとつついた。簡
単にもらえる話じゃない。それができにゃあ、アトムの動きが遅れていつて、効果が上がつ
てこない話になり、結局遅れていく話になる。

教育も同じことだから、どうすりゃいいか。節約するために本当に厳しい。ほんという
ところどころが分かっておらんのかな、町民も、職員も給料がくれとるもんで。そういう風
に厳しくなつてきているので、学校を減らせという意味ではないが、お金をかけて教育の本
質を上げていつてもらわなければならん話だし。どこをどうすればいいか。

南部の地域の皆さんの教育の考えを聞かにゃあいかんと思う。

○ この前阿南高の協力会の専門委員会で、南部の校長先生と竜峡と竜東中学の校長先生と集ま

って、阿南高を存続させるいい案はありますかという話の中で、高校よりも小・中学の方を大変じゃないですか？という先生がいた。阿南高校も重要だけど、天龍村や泰阜村など小中学校を存続させる方が、今重要なことだといっていた。

- 阿南高協力会も、このままだと阿南高が無くなっちゃうので、南部の町村で一生懸命になることを考えなきゃと話し合いをして、南部5ヶ町村の議員や阿南高校の校長先生のそういうかたまりは、特色ある学校づくりをどう考えるか具体的な策を練ろ。首長たちは県教委へ直接陳情やお願いに行くようにしろ。離島高校に合ったように寮もつくって、毎年1,000万くらいずつ出せという考えもあったようだ。

逆に、天竜峡にまとめて高校を作ったらどうかという考え方もある、それも無きにしもあらずだ。いろいろな考え方がある。 だけどこがまだ阿南町になる前からできた学校で、10何か村で作った。昭和22年に。泰阜のお蚕様かうところから始まる話だ。そうやって今になって大きな存在になんだ、こっちにとっては。ボートしとっちゃしょうない。

30年には県教委は方針を打ち出してくるという訳で、来年一年しかない。しょうにかからにゃいかんと言って、ちったあ銭も出すことが当然必要だと思うが、将来に向かってどうするのかということになりゃあ、関係町村でみんなみよということになりゃあせんかと思う。

今の訪問看護ステーションだって、一時しのぎで看護協会が手を引くということを南部の町村で持ったんだが、今度阿南病院がやるという意見もあるし、県がやるということもあるが、阿南病院がやると言っても、阿南病院がやるのだから阿南病院は赤字なんだで、ただでやれという訳にはいかん。そんな中で関係町村がださざるを得んくなくなると思っている。いろんなものがみんな負の連鎖で、どんどんこどもでくる。強いては人件費にメスを入れんならんようになってっちゃう。昔に戻っていくようになる。いい時代は終わって。そういう時に学校はどうすればいいんだ。ほんとそう思う。

人が地盤だで、立派な子どもをつくらにやダメだな。教育の質を考えた時にこういう会議はいいもんだと思うが、整ったきれいな話でなく、もっとどす黒い観点から言ってやっていかんやいかんと思う。

- 松澤総務課長

少しそれましたが、どちらにしても重要な問題です、阿南高校の存続問題も近々に養生していかにゃいかんし、それもまた片隅においていただいて、意見交換の方に移らせていただきたいと思います。着座にて進めさせていただきます。

それでは、3の(1)児童・生徒数が減少する小規模学級・学校の今後の運営について

- ①特別支援を要する児童生徒の増加に伴う町としての支援について、意見交換をお願いしたいと思います。

まず初めに、教育委員会事務局から説明をいたしますのでお願いします。

- 岡田事務局長

それでは資料について説明させていただきます。資料1のところが①となっておりますが、私の方で番号を付けるときに、付け間違えまして、2枚めくった表の方をご確認いただきたいと思います。

「①特別支援を要する児童生徒の増加に伴う町としての支援」ということでありまして、今現在の特別支援学級 児童・生徒の数でありまして、富草小学校から各学校で知的と自・情にわけてあります。富草で3人の1人、大下条で3人の3人、和合で自・情で1人、新野で知的で1人、阿南第一中学校で6人の4人、第二中学校はゼロでございます。

それに伴った下に学級数が書いてございます、町内で7つあります。その下にはそこをお願いしております。教諭、講師、委託職員となっておりますけれども、それぞれ県費・町費の方でお願いしておる訳で、いちばん右に計がありますが、県費の方で教諭が町内に3人、非常勤講師が4人、町費の方では常勤講師が1人、委託職員が3人です。計11人をお願いしておるものでございます。児童生徒数に応じて先生をお願いしているので、この児童生徒が今後増えていくような場合には、先生もこれ以上をお願いしていかなくてはならない事となります。

資料の方は、現状の資料として私の方から用意させていただいたんですけども、今日委員長の方から別紙にて、飯伊の教育委員会の協議会の方で研究した物を持って来ていただきまして、そちらの方を委員長さんから、ご説明いただければと思いますのでお願いします。

○ 佐々木委員長

それじゃあ、14市町村の関係でこの前、調査研究委員会の方で現状把握ということで、私が担当で、特別支援教育の市町村別該当人数と割合とまとめてありますが、全体的に見ますと、長野県の小学校は1.82%で全国2位、中学校は1.89%で全国1位ですが、14市町村はこれを上回って、小学校4.44%、中学校4.81%ということ、阿南町は中でもトップで小学校6.25%、中学校8.77%です。これは阿南町が状況把握が良くできているのか、特殊事情があるのか。その辺はよく検討しなくちゃならないかと思います。

《意見》

- 今言っとる率は、在籍率だもんで実際居る率ということで、特殊学校や場のいいところへ通っておるのは別なんたら。不利益地は全てが不利だということか。考え方も不利益地という事なんだな。
- これは今実際に在籍している方の人数で、グレーな人、もしかしたら就学判定を受けてない人もいるかもしれないが、それは見えない。
- それは2の特殊支援学級の数、及び児童、生徒数の中ほどに2+3というところがあり、3の就学判定を受けていないが支援というところを足してある。
- グレーの子ども達も含めてそういう子どもたちが、全て養護学校へいけばいいということではないので。
- 在籍しているだけで、もし養護学校が近くにあれば、その子たちは外れるということか。
- 養護学校は今重度の子たちが多くて、学校には境界線のグレーの子ども達がたくさんいる。そういう子どもたちが全て養護学校へ行くということではなく、現学級があつてたまたま特別支援の教室があつて、足りないところを補って守ってあげるのが特別支援学級なので必要だと思う。
- 普通の学校に用意される学級という解釈でいいか。
- それは確実に必要な時代になっている。割合が多いとか少ないとかの原因はわからない。
- 統計をとっている中で、割合が高いということは、それなりに町として子ども達に細かい分析をしながら、子ども達に手の入った指導ができているということだ。要するに子どもたちをほっとかないで、分析をして子ども達には“こういう風に指導していかなくちゃいけないんだ”と、きちんと阿南町は分析しながら分けてより良い指導ができているという、そういう見方をしてもらいたい。
- 非常に厚いと思います。この人数でこの先生、特に富草は1人に1人が付くほどなので、大きなところではそれは不可能で、3人4人に1人という位なので、阿南町は手厚い感じたと思います。
- 他に何か。この数字から現状をみる中で、どういう導き方をするとか、今後の意図するところはあるのか。
- 今後も先生を継続して、生徒のところに配置してほしい。
- ついこの間まで下條は、“特別支援で何だ”そんな考えで言っていた。そんなにやる必要があるのかと言っていたが、南部の就学相談委員会があつて、これではだめだということで、今年度から村費をかけてもやるようになったくらいだ。だから阿南町は誇りに思う。
- 南部地区就学相談の負担金は、下條村が一番多い。児童の数とか、判定の数によって変わってくる。

- おらほとすれば、いいんだら。良いということで良いんだが。
俺がいつも思っているが、『最後はなまただ。』と、医療・介護・福祉・教育だ。最後の最後まで重んじらんことで、他を切って行くしかない。そうは言うけど、切ったために何処が生きるかということもあるし、こういう状態をこう維持していくために、こういう中でも、どういう方策が考えられるかという、やっぱりある程度まとめてもらうんだなと。
小学校4校に中学校2校の状態は、昔は良かったかもしれないけど非常に厳しい。これを今無くす訳じゃないけど、そこらも協力いただいてレベルを下げる話じゃないから、協力してもらわにゃあという考えがある。
それだで、これ自体やっとなることがいいことなら、しっかりやっていってくれりゃあいいじゃないか。考えていけば全部なまたに通じとる話だ。

○ 松澤総務課長

3の①については、阿南町についえは、子ども達の状態に応じて配慮した町費による職員を継続していくと、確認したということでよろしいでしょうか。 まだ他にご意見・ご質問はありますでしょうか。

《意見》

- 特殊支援をどれだけの必要をかけてやっていただけるかだが、限りある予算のこともあ るので、難しいことで。
- それでも道やそういうものにかかるものをやめて、これに銭いるとなったときに、やめとかにゃあしょうないもんで。 なまたが第一だから。
- 障がいのある人ばかりでなくて、障がいのない人も助けてもらわあにゃならんもんで。バランスが難しいことで。
- そういう人たちが阿南町の中に実態としてあって、既存の学校へ行かんなんというのをダメだとは言えんら。
- 要望にもいろいろ差がある場合があつて、上村小学校に特殊な人がおつて、空調を入れてくれエレベーターを入れてくれというので作った。3年経ったらで出ちゃってほりをかぶっておる。それだけの予算を使って、1人の為にやってこれでいいのかどうかということ。
- エレベーターまでになるとえらいな。天龍村が今の教育委員会があるところに、前にエレベーターを作って、議会で問題になった。年間維持費に銭がいり過ぎて。 前富草の小学校も改築した何百万円もかけて、3年で出て行つたらしょうねいら。
- 2年や3年で出てしまつてあと使う予定はない、2・300万かけても、ということを去年やっています。
- インクルーシブ教育というのはほんとはどういうことか。障がいのある子と障がいのない子が同じ教育を受けるということだが。
- 能力のないやつが、普通、学校の勉強というと本を開いて次の勉強でたたかれたりするんだけど、そうでない状況で教育をしていかんなん教育もあるとうことだら。
- お金のことを言うと、設備とか変えとお金がかかるんですけど、結局、特別支援の子どもたちにどうするというのは。家族の納得というか、家族に理解していただいて、その子にとって一番いい選択をしなくてはいけないから、養護学校が良いのか、地元の学校で特別支援の学級で勉強した方が良いのか、親とともかく話を出来る時間をとってほしい。なので、小さければ小さいほど、早くその子の判定をしてやった方が、その子にとっては、長く学習を出来ることになるので、親をとりこんで、いかにその子の劣勢の状態を、納得させてあげて導いていくかということ。 さっきのようにお金をかけて2・3年で出てっちゃわないように、たぶんそ

の子ももしかしたら、養護学校へ行った方が良かったかも知れない。それには親を納得させなければいけないという、時間が必要だったと思う。

阿南町は数が多いということは、家族をとりこんで復学支援だといやだという家族がいる。飯田市など、そういうクラスだとうちの子はださないという家庭があるので、割合的には低かったりすると思うので、たぶん阿南町の場合は、その子の家族が特別支援が必要だと認めたくて、そういう学級に出していると思うので、ちゃんといかに話しているかどうかだと思う。

- 難しいな。えらい難しい話だ。脳梗塞で倒れちゃって、病院へ行って病院では、「これが最後の処置ではない、延命処置じゃないからやるんですよ。」とやったやつが、植物人間になっちゃったと同じで、医師はどうしても命を守るためにやらにゃならんとやったやつが、植物人間になっちゃった。家族が「やめてくりよ」と言った。それだが、医師は命を助けんならんとやった事がそうなる。飯田市で1カ月100万だ。みんな税金をつぎ込んでいるようだ。まったく同じじゃないが、みんなそういうことだ。生身の人間を見るということは、そういう難しさがあるんだ。 難しいと思うよ、気持はわかるがそんなこと聞けと言ったって。人情としてはわからん訳じゃない、親とすれば。難しいな、話し合いをしても平行線だかもしれない。
- 今度中学に上がる肢体不自由のお子さんが、普通学級に行くのが大変でエレベーターをつけるとかそういう話が持ち上がって、それなりの施設へ行った方がいいよと就学判定では出ているのに、親は地元の学校になるとなる場合があるので、何度話しても平行線だかもしれない。
- 結局義務教育は、先生が目が届く範囲で、安心して勉強をさせていくということが基本じゃないかと思う。そうすると親の気持ちとしても無理もない気持ちだと思う。そうすると義務教育は国の責任だで、国が全部お金を出せばいいと思う。義務教育なんて国の責任じゃないのか。
- いずれにしましても、特別支援を要する児童・生徒もだんだん増えてきますので、ハード面でもソフト面でも、阿南町は今までも申し上げましたけれども、他に比べて非常に手厚い指導・カバーをしていただいとりますので、先ほどから出ているハード面に関しては作ればいいというものではなくて、方法論でいくらでもできるということでカバーできますし、ソフト面については、阿南町は他に比べて非常によくやっていただいとりますので、引き続きお願いしたいと思っていますところであります。
- 松澤総務課長
今教育長さんがまとめて頂いた、3の①については、そんなことでよろしくお願ひしたいと思ひます。
- これから支援員を育てるようなところは南部にはないら。これから支援員自体がおらんくなりやせん。今、高森や松川は、工業団地で人の取りあいだ。10円・20円でパートの衆を。それと同じように人が少なくなつて、支援員というのもできんくなる。そういう問題だつて出てくる。
- 他から言われる、よく町長はこれだけ出してくれると。そういう時は本当にありがたいと思ひつてゐる。子どもたちは幸せだなあと思ひつております。
- 支援員の件で、売木だったか、地域おこし協力隊というのを教育の方に廻してゐるという。
- 支援員は教員の資格とかはいらんのか。
- 支援員は教員の資格はいらないの。講師と言うくくりになると教員は必要になるが、支援員と言うことで募集すればいい。
- なくてもいいが、あつたほうがいいということ。
- 観光だけでなく、何でもいいんだつてあれば、国から200万円くれて3年間はいいいんだ

ってそういうのを雇った方がいい。

- たまたま売木にはいい衆が当たった。なかなかこっちはあたりが無い。あれもなかなか集めるのにも大変で、そんな支援員の人がありゃいいがそういうことも考えにゃいかん。
- 何人でも頼みゃいいんだら。
- 上限は無いです。
- 入れるのはいいんだけど、来た衆の負担が増えちゃいかん。これ以上負担が増えちゃ。
- 増やすだけなら、200 万は国から交付税措置してくれるもんでいいんですけどなかなか。
- それに雇用の関係もある。そういうのを加味して、ただ他から頼めばいいという問題ではない。
- 松澤総務課長
次に②の「小規模校・少人数学級における教育・学習環境のあり方」について、事務局長より説明をお願いします。

○ 岡田事務局長

資料の1と書いてありますが、2の方でして、新聞の切り抜きを印刷してございます。これは上村小学校の12月9日に載った記事でございまして、複式学級の学校でございまして。1・2年生と5・6年生の複式授業を公開したということで、本年度1・2年生が各学年1人、4から6年生が各3人ずつの計11人で、3クラスの学校となります。その中のこういう風に授業ができるよという紹介をした新聞でございました。

ではなぜと言う話になると、阿南町内でも和合小学校がこれに匹敵した、さらにもう少し少ないという状況でございましてけれども、小学校と言うこともありまして町費もいただきながらの学校運営をしておる訳ですが、第1回の総合教育会議の中でも小規模・少人数学級の学校について、教育について話し合っていたいた訳ですが、今後どうして行くかということとを近々に迫る問題もありまして、教育委員会としてどうなのかということで話し合っていたいたたく、もう一度意見交換の方に載せてあります。以上の様なことでございます。

《意見》

- これは阿南の方からも出席したのかな。
- 聞いてないです。
- 背中合わせにして、黒板二つで1人で。ここに書いてある通りだけど。5・6年生についてはここには書いてないが、9人3人ずつグループに分けて、向かい合わせてアクティブラーニングの授業だった。
- 複式のこととは別だと思んですけど、阿南町の年長さんたちが自然の家に来て交流会をやったんですけど、4地区から集まっても22人しかいないんです。来年1年生になるのが22人。普通の学校で32人学級とか30人学級と言っているが、それにも満たない子が4地区から集まったと身につまされる思いをしたんですが、まだ富草小学校と大下条小学校は中学の段階で出会いがあって、30人に近い友達と出あえる。ところが新野の子たちは、一桁しかいない現状になってて、保育園で見ると年長さんが4人、4歳3人、3歳2人、2歳2人、1歳1人、0歳1人それしかいないタイプの子たちが、15年間それだけの社会でやるということは本当につらいと思います。たくさんいろんなひとがいる中で育つべきだと思うので、家族以外が身近なともだちが3人や4人しかいないところで15年間は、将来向けてそんな過酷なことは無いとつくづく思います。10人とかいればクラスにいるんだと思えるが、実際若いお父さん・お母さんの話を聞くと、本当に不安だという言葉しか出て来ないので、先ほどから町長が言っている近々の課題だと思う。
- えらいと思う。そんななかふと思ったんだが、学校へいかなんだところの娘が英語で、優秀

だったが、あれはどういうことな。

- 彼女は社会に出てたので。社会と阻害していたのでなく、ハーモニカの交流会とかいろいろなところに出ていたので、阿南高校に行って高校1年生で少年自然の家に来た時に話をしたら、普通に会話ができるし、友達とも普通に会話をして彼女自身も前を向いていた。
- 新聞記事から見れば、やり方次第ではこういう授業もできますよというだけで、今委員さんの言う3人や片手だけで15年もおるといのが本当にいいのかということですね。授業自体はいくらでもやりかたはありますよということだと思うんですけど。やはり統合と言うのは避けて通れないことだ。
- そう最終的にはだが、その前に現状でやるにはこういう方法もある。その次には各学校間の交流をするということもある。
- それは算数とか限られた教科しかできないのであって、実際は小人数では力をつけるしかないの、とりあえずこういう方法をとっているの、例えば体育とかそういう活動ができるのかと言うと、2人や3人で何ができるのかとなる。うちの子の時でさえ少ないと思っていたのに、一桁になっちゃうと、例えば自分の馬が合う人たちがいればいいんですけど、自分以外の3人・4人が馬が合わなかったら、そんな最悪なことは無いと思う。だけど30人くらいいてこの人は馬が合わないけど、この人だったという世界だったらまだ身の置き場があると思うのでいいと思う。これしかないから好きになれよと言ったって難しい話だ。
- ある程度の人数は欲しいんだよな。
- 3人・4人の中で育った子が、実際に高校に行って40人のクラスにいて、自分の身の置き方がわからないと思う。今40代くらいの人たちに聞くと、高校に行くとか小さくなるという。最初は話もできなかった。その子たちは20人くらいのクラスで育った子でさえ、山から下りて行ってこまっちゃったというのを聞くので、3人・4人の中にいた子たちは大変だと思う。すくなくとも高校は社会の第一歩なので、実際それでつぶれちゃったお子さんもいるので。
- 岡田事務局長
ちょっとすみません。時間の方が過ぎてきますので、教育長の方でたたき台として「学習環境づくり」として資料を作って頂きましてお配りしますので、教育長より説明していただきたいと思います。
- 南嶋教育長
「統合」という言葉が出てきますので、これを作った時には南部5カ町村の首長さんたちとの教育懇談会の時にこの資料を出そうかなと思ってたんで、そんな関係で作った資料でありますので、総合教育会議では学習会ということで、出さないようにできればと思います。
どういうことが書いてあるかと言うと、私の個人的な考え方やまた資料を見ながら勉強をしてまとめたものです。ざっと10分程で説明したいと思います。

現状の子ども達（若者）は、どういう子ども達かと言うと、今まで口を酸っぱくして言っていまいりましたが、親・大人たちが言うとおりの、指示世代・指示待ち族、言われなければ動かない。人とのかわり、人間づくりはできないために協調性がない。そして、教科書の知識・学力があれば優秀。それがすべて人間良しとしてずっと来ました。

そういうような流れを打破しないと、これからの明るい社会はできあがって行かないということで、少子化に伴う教育・学習環境は整えて言った方がいいんじゃないでしょうかということでもあります。

少子化に伴う小規模校・少人数学級にはメリット、デメリットがございます。そして、やはりそこに将来の子どもを考えたところで何が大切かと言うと、教育論からやはり適正規模の集団の中で育っていることが、先ほどから意見が出ておりますように大切である。要するに座学での知識だけではなく、協同的・発展的な学びが必要となってくる。そして人との関わり・

人間関係、切磋琢磨しながら競争心、心身ともに鍛練する。そういうような機会を設定していく必要がある。だから適正規模の学級・学校が必要なんだよということでもあります。

その下に余分なことが書いてありますが、故にこの懇談会（南部教育懇談会）が開催されるようになりました。これは25年6月4日でございます。阿南町主体で広げていったものでございます。

統合という言葉はあまり芳しくありませんが、その下にて適正規模の学校なり集団をつくる基本的な考え方としては、やっぱり学校をつくる適正化、それから適正配置と言うものを考えるには一方的な行政だけで進めるものではなくて、地域とともにある学校と言うことで視線で丁寧な議論を進めていく必要があろうというのが一つ。それから、子どもに求められる資質・能力、そういうようなものを、多様な人々との関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものである。だからこそ地域住民や町・村づくりも含めた将来ビジョンを共有しながら十分な理解と協力を得ながら進めることが大切である。これが二つ目。それから三つ目は、小規模校の存続のケースにおいて、教育の機会均等とその水準の維持向上という義務教育の本旨に鑑み、メリットを最大化し、デメリットを最小限化する。そのように講じることが大切ではないかということでもあります。

そんな基本的な考えに基づいて、中学校の場合にちょっと考えてみました。1・2学級、複式が存在する規模になった場合に、どういうところに問題があるか。一般的に教育上の課題が極めて大きいために、学校統合等により適正規模に近づける適否を速やかに検討する。要するに、いろんな学び・いろんな活動・学習・人間関係そういうようなもの、強いて言えばまた教職員の配置人数に関わってくる訳で、非常に課題が大きいということが一つ。二つ目が、小規模のメリットを最大限生かして、デメリットを最小限におさえることが中学校1・2学級になった時の考え方ということ。それから3学級の場合でございます。各学年1クラスだった場合も同じような問題・課題がある訳でありまして、特に複式、これから第二中もそうですが、複式が発生する可能性もありますので、そんなところを適正規模に近づけるために考えていく必要があるということです。そして地理的条件等により統合困難な事情がある場合、これは統合困難ということはありません。片道バスでも20分くらいで全てが行き来ができるんですから、往復40分でもできるんですから、地理的条件は無いと思います。

その下に、小規模・少人数学級によりメリットを4つ※印が書いてあります。小規模・少人数学級のメリットとしては、1つ目に、学習面では一人ひとりに目を配って、個々の対応・指導ができること。二つ目に、人間関係が小さい時から変わらず、兄弟、姉妹のように育っている。要するに気遣いや気配りがほとんどいらない。逆の念が出てくる訳ですね。大勢になってくると、気遣い気配りをするによって疲れてしまうというのが、大勢の中に入った時に尻込みをしてしまうということになると思います。三つ目として、各地域のコミュニティの核としての性格を有する。要するに防災、保育、地域の交流等、様々な機能を持っていること。最後に、学校教育は地域の未来の担い手である子どもたちを育む営みでもあり、町づくり地域づくりの在り方と密接不可分である。

そしてまた、その下にデメリット。デメリットが結構あるんですよ。小人数が子どもへ与える課題ということで、クラブ活動、部活動の種類が限定される。個性の伸長が無い。二つ目に、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。男女比のアンバランスが生じやすい。上級生・下級生のコミュニケーションが少なくなる。学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。協同的な学習で取り上げる課題に制限が生じる。そして最後から二つ目の※印が、教員と生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。要するに客観的から主観的になりすぎるということ。余分なことですが、教員と言うのは客観的であるからできるんであって、主観的では教員はできないということである。最後の※印が特別な生徒の考えにクラス全体が引っ張られる。

その下、教員が少なくなることによる課題。集団の中で自己主張したり、他書を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。児童生徒の人間関係や相互の評価が固定しやすい。協同的な学びの実現が困難となる。それから、専門性を活かした教育を受けられない可能性がある。要するに中学になると教科担任制になりますので、専門の先生がいなくなる。複式になると先生の数が足りなくなるので、専門的な先生がいなくなるということです。それから下から二つ目の切磋琢磨する環境の中で意欲や成長を引き出されにくくなる。教員への依存心が強まる可能性がある。それから次に行って、進学や就職の際に大きな集団への適応に困難をきたす可能性がある。多様なものの見方や考え方、

表現の仕方に触れることが難しい。多様な活躍の機会や場がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

こういうようなことで、通学距離・時間に対しては、それぞれの距離とか時間は国で決まっております。小学校4km、中学校6kmそれから1時間以内。それからスクールバスへの補助も平成25年から支給されようになっております。

それから統合における子どもへの効果ということで、ずっとありますので読んでいただきたいと思います。

首長部局との緊密な連携による検討は、読んでおいていただきたいと思います。

10年前に行われた阿南町での統合について書いてあります。平成17年10月（11年前になりますか？）にこういう経緯がありました。総称して教育論と地域論が対決して統合にならなかった。教育論がそういうもので、地域論がそういうもので対決して、統合までいかなかったという結果を聞いております。最終的に一番下見て頂いてもわかりますが、統合した学校・地域の結論ということですが、これは全国的に、統合したところを総合的に考えて見たときには、統合については賛否両論あるが、結果的には人数が少なくなることによって学習活動への影響を鑑み統合となった。というのが総合的な結論かなというようなことであります。

こんなことを考えまして、学習会としたいと思いますが。いずれにしても総合教育会議の中では、やはり1つの方向性、こういう風なのが非常に重要であって、必要ではないのかなという方向性を出していただければありがたいと思いますし、教育委員会としてもこういう少人数・小規模校になった時に、じゃあ教育委員会は何を考えているんだ、どういう考え方なんだという風に聞かれた時に、教育委員会としてはこういう風な考え方で子どもを育てるのが大事なんですよというものを、表に出していく必要があるかなとこんな事を思います。

《意見》

- まずはそのとおりだとは思いますが、前での、統合に関する基本的な考えの中で、行政が一方的に進める性格のものではない。学校が持つ多様な機能にも留意し、保護者や地域住民との十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論を行う必要がある。こういうことから言って、行くところが結果、教育論理と地域論理の対立、結果、賛否両論あるが結果、人数が少なくなったことによる学習活動への影響を鑑みてそういう方向でやればいいのか、いまおらほがどの時点だかということで、少人数で今言う、多すぎても良くない、少なすぎても良くないなど過ぎると言うことは良くないのだが、今言う理屈の中で、教育論理と地域論理との対立が統合されなかったというなら、これが今どのくらいまで醸成されているかということ、俺は進んでおらんと思う。地域論理が。思ったほど進んでおらん。おらほところは他と違って、いい適正時期なのか、期は熟したのか、それが他の町村長から指摘されるんだよな。「おめえんところほど難しいところはねえぞ。」「議会見とつてもそうだが、何を見とつてもそうだが、テレビを見さしてもらおうがおめえのところは難しいな。」そういうことをはっきり言うやつがおる。それもあるんだかもしれんなどこの頃考える。 だけどこれも進めていくには、視点をふまえた丁寧な議論をやっつけていかんやいかんということなだけで、それを具体的に踏み出すには、どうすりゃいいんだ。 町長の鶴の一声で、町長あいさつでやったときには、教育論理や地域論理でまた同じ平成17年を繰り返すことになるんだに。それは言ってみればここの地域の特性が、なかなかそんな簡単な話じゃないよという今までの評価はわかっとる。
- 前回はPTA会長がおるということで、松川の例を取ってPTAの保護者の方から話を持っていくという話があったが。それは切りこみがどこから行くという話だけか。
- 飯伊のPTA総会の後に、教育長もたまたま出席した総会で、南部の衆が残って会長で話をした中で、統合の問題にちょっと触れたんですけど、他のところではできる限りのことまでしていると、泰阜にしても小学校を統合したり、できる限りのことまでしているの、考えてみたらうちだけだなど、南部全体でというのではなくて、阿南町のPTA会長さんの様子を聞いたけど、PTAの中では自分たちの学校を守ることだけで全力である。学校は学校で町の方からそういった意向はないので、今ある人数が減ったので、二中は何年か前に部活の再編をするし、

一中も大変な時だと言うので、22日に部活動の再編の検討委員会をし、3年後には実施するという今の子どもたちが卒業しちゃったら再編をやるということなので、保護者会としては今の学校を、特に少なくなればなるほど、和合のようにとにかく学校を残そうとして、会長自ら動いて、全国的に募集をかけて1家族決まったということですけども、そういったことをするし、苦しいところは何とかしようと、できる範囲の中で学校の中でどう運用するかということなので、統合だとか他の学校と話をしたいだとか、そんな雰囲気ではなかった。と思います。

教育委員会は教育委員会で、いろいろと話はするんですけども、町の意向としては教育委員会が単独で動いたりはもちろんできませんし、町としてもそういったものはなく、今出されたものを検討委員会みたいな形で、各方面から持ち寄ってもらって、最終的にこういう結果になっていいと思うんです。みんなで検討しましたね。その結果がこういうメリット、デメリットに集約されると思うんですけども、最終的にどうしますかということで、今後子どもたちを預ける実際の当事者、現在中学に居るとか、小学生だとか保育園だとか、直接影響を被る人たちに最終的にはたぶん意見を聞いてという形になるのかと思うんですけども、そういった検討委員会を設けると言うことと、ある程度的人数で、ここまで来ちゃうと全部複式で、この学校もこの学校も、みんな複式になっちゃうぞというのがみんな人数で出ちゃうので、客観的な人数だとか数値化で、平成何年を目途に統廃合しますということで、ある程度方向を決めてもらって検討委員会を設けて、そこでいろいろ出ると思うんですけど、出尽くしたところでそういった総合的に判断をする。特に当事者の意見を重視する。結果こういうことになると思うんです。

- 言わんとすることはわかる。もっと言うと俺は、何にも考えとらんし困っとらんと思っとる。ほんとに困った困ったと言っている奴が居るのかと思っとる。親としても、子としても、爺さま婆さまにしても。ほんとに大変なことだと感じておる人がどんなにおるかと思っとる。今時困っちゃおらんでいいんじゃないのと、そういう部分があると思う。
- 大下条小学校は無関心だ。
- 一中でいっしょになるというのが多きいんですよ。
新野を守らにやいけないという時代じゃないという感じがするんですが、さっき大平さんが言った、PTA会長は中学三年の親じゃないですか、その親たちは終わっちゃう話だし結構いるんですよ。だけど実際に若い父ちゃんや母ちゃんと話すと、本気で困っているんです。けどどのタイミングで声を外に出していいかわからないという。内輪で何人かで話してるときには、どうするのこの人数でとかそういう話は必ずする。だけどそれがみんなの総意として、外に向かって発信するところまでいかない。
- 実際困って居らんのじゃないの。
- このままだったらうちの子小学校に上げれないから、他に動いていかなきゃいけないかなというところまで言っている人もいる。そうなったら、新野からどんどん人が居なくなる。
- どんどん進んで、ホントに困ったことにならんと困らんのじゃないの。
- いや、困っていることをどう表現していいかわからないと言うか、どう形にしていいいかわからないんだと思う。教育長の考動力が伴っていないと思う。
- 今のこの話、統合ありきの話じゃないけど、少人数じゃしょうないというが、どうもこう考えるにそういうとらえ方が阿南町にはあって、言うわりには困っとらんのじゃねえのと考え始めた。だから、この前の時には困ってないにも関わらず、地域が衰退するところに矛先が向っちゃって、こういう話になっちゃったんじゃないかと思う。
- 学校の活動を見ていると、地域の人たちが関わって、そば打ちやったり遠足に行ったりしているじゃないですか。実習自体を見ていると、人数が多くても少なくても関係ないと思う。地域の人たちは出番があるし、そばも欲しけりゃ入れて。楽しくすごせばいいで終わっている。だけど目の前に子どもたちが来たら、これしか人が居ないとかいうところまでいかない。地域の

人たちは困ってないと思う。

- 親も困ってない親もいるとは思いますが、育ってない親の子どもは困っている。いろいろ考えると、今の状態は絶対子どもには良くないんですが。視線をどこに向いているかという、子どもの目線で考えてやれば、いっしょになった方がいいに決まってるんで、その、親は言いにくいところはあるし、考える場をこちらで与えてやって、全部親に任せちゃう、切り口を親に任せちゃうというのは大変なことなので、こっちである程度きっかけを作ってやらないと、今言うように協議会など作ってあげて、次に持っていけないとじゃないですかね。
- そう言うところからどするのというのが、次の言葉が出てくる話だしそうでなきゃダメだと思うんだに。現実としてそれがホントなら、どういう具体的に踏み出すかだ。
- 学力と言うところからすればいいと思います。前も言いましたけど、教育委員協議会の中で少人数の方が英才教育ができて、どんどん頭が良くなるじゃないかと言ったら、やっぱり授業が成り立たないとそれ以上発展するやつがない。総合的に今の状態はと言ったら、学力は低下する。向上しないという。
- だって学力はいいんだら。
- いい。 今年はいいい。
- 学力の問題から入っていけば、教育委員会では今、教育長を中心に学力・考働力の向上を目指すという。学力の検討委員会は先生方でもっているんですが、そういう検討をする中で、1つとしては、多くの水の中でもまれてと言う話があるが、そればかりではなく。一つとして話し合うのは可能だ。
- 中学の校長先生とか話しとっても きっかけがない。どうすりゃいいら、言っているいいもんなんだかと言っている。
- この間松川の町長と話しとったら、松川は小学校だか何か統合したのか。
学校を統合しよなんて言わんが、どういう風にしたら、今言ったような問題が解決できるか。そういう中では、学校を一つにしたらなんて言わんが、どうしたらいいかっていうことを考えて、進めていってもらわにゃしょうねいに、と教育委員会に言っていたらこうなつたと言うんだが、どうやってやったんずらな。
- 保護者会が。
- 保護者が中心だけど、基はそうじゃないですか。町長が教育委員会に研究しろ言って。
- 前回の平成17年の11月の研究委員会も、結局答申があって、統合に向けた研究するという答申があって、研究を立ち上げていろいろな人が集まって、各地区ごとにやっていった。で、途中でとん挫しちゃったことなんすけども。
- だから、期はまだ熟してないし、本当に必要と感じていないんじゃないのというの。
- だけど議会のなかでさえ全然タブーとされちゃって、統合と言うものを。
- 期が熟したとののは、こっち側の考えではもうとっくに過ぎている。
- 阿南町の小中学校がいっしょになったって、適正規模に達しないんだからね。
- 10年前の会議の時に集まったメンバーが、実際の親たちが集まった顔ではないですね。
- そう、子育てが終わった人ばかり。

- その人たちが残したいと言うイメージですね。
新野は、対大下条・対富草の気分で、学校を残すという事しか見えないんですが、ホントに子どもたちにとってこれでいいの、というその話をしてほしい。
それが自分のこれから学校に出す親、現在出しているお父さんお母さんたちの本音を集約する会議がいい。
- 前から言っているように、小学校はいいと思う。地域が中心地となって置いてもらって、とことんまで。中学校を見た時に、ほんとに下條村を除いてみんな小規模校になっちゃってて、それで子どもたちが高校・大学へ行くのに、それなりの人間性ができるのかと考えた時に、非常に危機感を感じる。だから、中学校を何とかしようという気持ちがいっぱいなんだけど。
- 俺もそう思う。やるんなら中学校だと思う。いっぺんに両方も問う事もないし、スタイルのできて来た中学生が、バス通学もできる話だし、今言うような教育長のような考え方の中では、もう準備していかんやいかん。そういう年なんだ、選挙年齢も引き下げられたところに。そういうことで中学校を考えにいかんと思う。
- それが一番手っ取り早い結論だと思います。
- 何度も言うように、教育委員会の考え方としては、適正規模で子どもたちを育てていく方がいいんだよ。総合教育会議へ持っていっても同じ考え。町も同じ考えだから、保護者の方たちも考えてもらって、どうですかね。と持っていったらどうなんだろうかと。
だって、このところでは、少人数学級がいいなんて言う人は誰もいないんだもん。
だから、教育委員会としてはひとつの方向性として、適正規模の学校、適正規模の学級で学習することが好ましいんだという結論で、教育委員会では思っています。それを総合教育会議の中で話したところ、両方共にその方が教育的に大だと、というような方向で結論をまとめましたと、そういうものが一つあることは重要なことだと思う。
- これからどう進めていくかだと思う。
- 反対論ができるのは当たり前だと思う。だけど筋道としては方向は決まっているというのを打ち出していけば、いいんじゃないかと思う。
- 小学校の複式と言うのは聞いたことがあるが、中学校の複式は聞いたことがない。
- 二中は34年。34年までに考えないと、複式になっちゃうと9教科が進まなくなっちゃう、先生が少なくなっちゃうんだから。教科担任制になってきて、9教科の専門の先生がいなくなっちゃう。だから5年内に何とかしないと言う事。
- 本当に、滑り込みセーフの際だな。
- どうせなら南部でいっしょにやればいいじゃんて、今度南部の教育懇談会で「首長さんたちどういう風に考えているんですかね。」と、お聞きしようと思って書いたんです。
- 南部でみんながそういうことだと動き出せば違ってくると思う。阿南町中での新野だ和合だという感覚とはまた違う。そこまで行けりゃあいいと思うんだが。
- そういう事をどんどん情報発信していてもいいですね。複式なるでということをごんごん出して言って、親が考えるきっかけにしていってければ。
- 今の現状と課題という、34年に複式になりますよというのは、保護者もいづらか知りえと

る情報。

- 小学校1年の親たちは、うすうす知っているのかな。
- もうそういうのを、どんどん出して言ったらどうな。阿南高を含め、阿南高もクラスが減っちゃうんで。情報提供をしていったらどうか。広報もどのくらい見てくれるか分からないけど。
- 複式になったらどうなのと言う具体的なところまで出さないと。複式になったって別に先生が合わせて持つくらいでは。
- 現状としてこうなっていく、数字がこう物語っております。そうするとこうなります。というように。
- それがあったからこの前、新野だけで小中一貫校の何かをやったんだね。
- 行政も変わってきたので、こういうのを契機にしてやっていかんとできんし、最後はでかい問題で当事者の衆がみんなしょわんならん事になる。
- 「34年なのでまだあんじゃねえ。」と言っていると、1年前には準備もせんなんし、31年ころには結論を出しておらんなん。
- ありがたいことに、町長さんがこの間おっしゃってましたけど、大体が適正規模にならないんだから、一中で全部間に合っちゃう。教室は。そういうことではありがたい。
- どっかでそういう風に動かして、具体的に進めていってもらわにや。
- そういような情報提供をスポット的に流してというか、徐々に徐々に。一気にボーンと言う訳にもいかんで。現状と課題の様な形、その1、その2というように。
- そういふうにしていかと、目先のことに見えて、困った困ったとなっても遅いにホントの話。
- 今度、情報提供の関係をどういふ風に取り組んでいくか。教育委員会で原案を考えて、総合教育会議にかけるとか。そうするとちょっと前進するのかな。
- 松澤総務課長
方向性としてはそういう事で、よろしいでしょうかね。
- 全員
はい。
- 松澤総務課長
そういった情報は、教育委員会でまとめてもらって、この教育会議で最終的に調整して、出していくという形になると思いますので、お願い致します。
それでは、4の懇談 平成29年度予算編成に係る教育委員会から町長への要望につきまして、佐々木委員長さんお願いいたします。
- 佐々木委員長
平成29年度予算編成についての文書であります、ここで朗読させていただきます。

＜平成29年度予算編成について（お願い）を朗読＞

以上であります。よろしくお願い申し上げます。
- 今の話の中で、いろいろあるけれども、すべての学校を長寿命化計画といっても無理じゃな

いか。老朽化して来とるのはわかるけども、大きな金をかけてまた何年かしたら取り壊しじゃしょうない。今言う話と相まって、物事を整理してかにゃいかんと思う。金をびちゃっとりや怒られるに。そこら考えてもらわんと、何でもかんでも学校教育だで金をつけよ金をつけよという話じゃないと思う。最後はナマタだと言ったけど。そういうことも考えていかにかんかんと思うんだに。

それと、この間そういった話を聞いたもんで、化石館にいつて見て来たんだが、しけでカビが生えちゃうやつは、化石館側の方がえらいんだわ。この間話したが、どっちか片一方をかじかの湯の所へ移すべきかなと話したんだが。手狭で駐車場は狭いしと言ったけど、この間もいろいろな衆と話しとったんだが、どんどん箱物に2億や3億もかける時代ではないし、そうなると、化石館のうち一つをかじかの湯のしゅふふのところへ持って行って、使って見て頂けるようにした方がいいのかなと思って、見たがしけ地で、だいたいため池があったところを国道の残土で埋めている所だ。食彩館のところもため池だった。未だにくみ上げとるんだに。ボーリング調査やったところ関昌寺からサイフォンで国道下を潜って、下へ行くんだが国道建設で埋めてため込んだということなんだ。化石にもカビが生えるようでは困るし、見てもらえるように中整備をして、出したらどうだろと考えておるんだに。今阿南学園の8億か9億かけるのにもいろいろ金をもらえるように飛びまわって居るんだが、もう簡単に金をつけてもらえる時代じゃないもんで、その中でまた新たに3億も4億もかけて箱物を作ってもしょうねえかなあと思って考えとる。今水道審議会を設けて、本格的に着手していつてもらわんと、水道の使用料を上げさしてもらわんならんし、当初阿南町の水道を一定のレベルにした37億や40億をまた背負わんならんようになる。改修していけんくなっちゃう。そうすると、補助金は減ってくるは、交付税は減ってくるは、いっそどうしていいかわからんくなっちゃう。

- 少子化の話じゃないけど、そういうのにも関連しながら進めていかないと、作ったはいいけど何も無くなっちゃうと言うことになる。
- もしその化石をしゅふふの方へ持って来るんだとすると、富草小学校の3階にも廊下に化石が山と並んでいて、消防上からも言われていてそれも含めて移動していかないと、学校では管理ができない。
- そういった方面で スペースはどうなんだと検討してみて。化石を見る衆はその方が見れるということもあるが、かびとってはえらい。
- 興味がある人は、化石と言うのはホントに興味があるので、自然の家で募集しても大勢希望がある事業なんで、だぶんやれば人は来る気がします。
- ちょっとそんなことも考えています。

6 閉会

- 松澤総務課長

それでは、時間となりましたので、この辺で閉じさせて頂いて、今後は積極的に情報公開の情報の開示等をするなかで、いろいろなお意見等もいう機会も多くなると思いますが、それではこれもちまして、第2回の阿南町総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

